

1 今年度の取組状況と取組目標に対する自己評価

自己評価の基準：【A】 十分達成できた 【B】 概ね達成できた 【C】 あまり達成できなかった

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策	今 年 度 の 取 組 状 況
学習指導 義務教育段階の学び直し、基礎・基本の定着から大学受験等まで、様々な生徒個々の進路希望を叶える学力の向上を図る学習支援体制の確立 【A】	① 生徒の理解度に合わせた教材や学習支援を工夫し、進路実現に向けた学力の向上を図る。 ② 外国籍等日本語を母語としない生徒への日本語習得の支援のため、授業内容を通訳する日本語指導員を活用したり、ルビ振り教材・板書を徹底したりするとともに、国際理解教育を通じて日本国籍生徒との相互理解を深める取り組みを進める。	① 分かる授業を目指してプリントやワークシートなど教材の精選と更なる工夫、デジタル技術の利用による生徒の学習活動の視覚化やオンライン授業の実施を進めた。また、授業理解度では昨年度の88.4%から92.6%へ増えている。 ② 日本語の理解に困難を感じている生徒6名に対して、日本語指導の外部人材を活用して支援を行ったが、指導員の都合やコロナ禍により定期的に行うことができなかった。ルビ振りによる教材の作成をほとんどの教員が実施した。
進路指導 キャリア教育の充実による進路意識の高揚と将来設計の明確化 【B】	① 生徒が主体的に将来設計に取り組むための進路行事の内容充実を図る。 ② 各種検定の実施など、スモールステップで進路意識を高める取り組みを充実させる。 ③ ハローワークとより密接に連携し、キャリア教室の実施や就職希望者の模擬面接、企業見学、採用試験受験の支援などの取り組みを進める。	① 適性検査の実施や職業能力開発センターへの体験訪問など、例年になくキャリア教育を実施した。キャリア教室以外の取組を充実させた。進路指導についての生徒の満足度は93%以上となった。 ② 日本語検定や受験指導のための夏期講習・放課後の補講を延べ昨年度と同様に200時間以上実施した。卒業生の進路決定率は昨年度の79%から67%へと減少した。 ③ コロナ禍の中、就職活動は厳しかったが、例年以上の就職支援活動を実施することができた。
募集・広報活動 本校に入学を希望する中学生等の増加 【C】	① 不登校だったり学び直しを考えたりしている中学生、外国籍など様々な人に本校の存在を知ってもらう広報活動を行う。 ② ホームページや学校案内を通じて広域通信制にはない夜間定時制のよさ	① 学校説明会に来校する中学生や保護者の数が合わせて14組20名と増加した。また、都内のサポートステーションや夜間中学校に教員が直接訪問し本校の説明をしたり、FAXで学校案内のお知らせを送付したりしたが、入学希望生徒は増えなかった。 ② 学校案内のレイアウト等を外部業者に発注して刷新し、より見やすい紙面とした。また、

	を発信する。	外国籍などの様々な人に対応するためにルビ付きの学校案内を作成した。ホームページを48回更新することができた。学校案内を延べ120校以上の中学校や夜間中学校、フリースクール等に送付した。
生活指導 活気にあふれ規律ある学校生活の確立 【A】	① カウンセリングスキルを駆使し、深い生徒理解に基づく良好な人間関係を形成する。 ② 主体的な学校生活の実現のため、生徒会活動などの自主的な運営を支援する。	① 教育相談推進委員会を月1回開催しSC、YSW等と連携して、生徒の相談活動を行った。専門医派遣事業や教育支援心理士とのケース会議を重ね、個に応じた支援を行った。 ② 第1学年「人間と社会」においてグループエンカウンターを2回、社会的自立支援プログラムを5回実施し協調・協働の理解を深めた。スポーツ大会や学校行事を生徒会役員に企画運営させた。部活動はバスケットボール部が少人数ながら他校と合同チームを作るなどして大会等に出場し、上位に入賞している。
保健指導・給食指導 健康的な生活習慣の確立と正しい食の知識に基づく食習慣の改善 【A】	① 喫食率を高め食育を推進して、健康増進や衛生環境の向上に関わる情報発信に努める。 ② 生徒情報を全ての職員間で共有し、協働的な教育相談体制により健康管理を行う。	① 給食メニューと同時に季節の話題や衛生に関する情報を、毎月掲示し配布した。また、お試し給食を新入生に対して実施した。喫食率を40%に高めることができた。 ② SCによる1年生の全員面接を実施し、丁寧に時間をかけて行った。またYSWとも協働し、生徒の面談を適宜行い、心身の健康管理に努めている。集約した生徒情報は職員会議や教育相談推進委員会を通じて全教員により共有できた。
学校経営・組織体制 生徒の自己実現の支援に全力を傾注する学校運営の組織的な展開 【A】	① 分掌・学年組織の連携、経営企画室との連携により、校内の組織的な教育力を高める。 ② 情報の共有に努め、生徒支援策を様々な工夫し実践する。	① 年間行事の策定及び運営や日常の部活動・生活指導において、管理職と主幹教諭の指導・助言の下、担当教員が経営企画室との連携を深め、予算の範囲内で可能な活動について打合せを随時行っている。 ② 今年度も生活指導において学年と分掌の連携を深め、有機的な生徒指導を行うことができた。また全教員が職員会議や生徒登校前の打合せ等で個々の意見を突き合わせることもできた。

健康で明るい職場づくり 教職員が心身共に健康を維持できる同僚性の高い職場づくり 【A】	① 計画的な業務の進行管理による効率化でライフ・ワーク・バランスを実現する。 ② メンタルヘルスの維持に努め、何でも相談でき意見を言うことのできる職場をつくる。	① 各分掌の全ての業務でベテランと若手が一丸となって取組を実施している。分掌部会等を毎週行い、業務の進行管理と業務量の配分調整を行った。ほぼ全員が年次休暇と自宅勤務を併用してコロナ対策に努めた。 ② 年3回の自己申告の面接で、個々の業務の概略を把握し、課題と思われる点について随時面接や意見を聞いた。組織的に、何でも相談でき意見の言うことができる職場に変化し、メンタルヘルスの維持につながった。
--	--	---

2 数値目標と達成数値

数値目標	達成数値
○ 授業に関する自己評価を90%に ○ 教員の授業に対する評価を生徒95%保護者80%に ○ 行事参加率を85%に ○ 進路決定者を95%に ○ 進級率を95%に	○ 92.6% ○ 生徒88.4%、保護者72% ○ 81.5% ○ 83% ○ 91.0%

3 次年度に向けた課題と対応策

本校の目標である、多様な生徒に基礎的・基本的な知識や技能の定着を図り、実社会で生きる力を育成するため、日常の取組を行っている。自己評価を【B】【C】とした項目を中心に、次年度に向けた課題と対応策を以下に示す。

進路指導では、適性検査、職業能力開発センターの見学会、企業説明会の校内での実施、4年間を見通したキャリア教育の計画を昨年度以上に明確化し、各学年の進路指導に道筋を付けている。しかし、昨年度以上に進路未決定者が増えている。今後、自立支援担当と進路指導主任が連携を図り、早期に進路指導を実施することで、進路未決定者の対策を強化する。

募集・広報活動では、学校案内を全日制教員による上級学校説明会時の持参や通学圏内の郵送や訪問等の実施、ホームページの更新回数の増加、正門の掲示板を活用等の広報活動を行っており、学校説明会に参加する親子の数は増えたが、応募倍率は上がらなかった。中学校の現状として、不登校や何らかの理由で中学校に通っていない生徒・保護者・関係者に本校を知ってもらう必要がある。今後はこのような生徒を支援しているフリースクール等への広報と直接訪問しての募集活動を行っていく。

心身の健康づくりでは、保健室を利用する生徒が減少しているが、人間関係づくりやコミュニケーションスキルの定着には教員や様々な関係機関との連携と支援が必要である。そのため、SCやYSW等外部人材を活用した面談を通じて、教員と生徒との会話やコミュニケーションを取る時間を充実させたい。また、生徒の給食への要望をできるだけ生かした方策や全学年を対象としたお試し給食の実施、給食時間の延長を検討し、大幅に下がってしまった喫食率を上げていく。

また、生活指導では、問題行動が減ってきている。問題行動の指導の中に、教育相談的な視点を取り入れた指導案を、相談員の専門的立場からの意見も参考にするなど懐の深い指導の展開により、生徒の帰属意識は少しずつ高めていく。